

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	高等教育推進センター
大項目	0 理念・目的
中項目	
小項目	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
要素	理念・目的の明確化 実績や資源からみた理念・目的の適切性 個性化への対応
小項目	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。
要素	構成員に対する周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2010年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価			
		2010	2011	2012	2013
1. 高等教育推進センターの学内外の認知度を向上させるため、研究紀要(年1回)・ニュースレター(年4回)を発行する。	→ 1. 研究紀要・ニュースレターの発行数	A			
2. 社会への説明責任(USR)を果たすため、授業調査を毎年実施し、実施結果を学内外に公表する。	→ 2. 授業調査の実施状況、および、結果の公表	B			
3. 教授者－学習者支援システム(LUNA)を普及・定着させる。2013年までに教授者の利用率を30%とする。	→ 3. 教授者の利用率	B			
4. 高等教育に関する研究を充実させるため、研究助成などを行い、研究論文・事例研究を年10本公表する。	→ 4. 研究論文・事例研究の発表数	B			
2011年度以降に設定した「目標」					
	→				
	→				

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目0.0.1	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
	(理念・目的の設定の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→ <input checked="" type="radio"/> 理念・目的を設定している <input type="radio"/> 理念・目的を設定していない
	(説明) 「教育力を強化し、教育の質を高めることにより、本学の教育の一層の充実・発展に寄与する」 (説明) 2010年4月のセンター設置に伴い、目的を上記の通り、明確に定めている。
★ 小項目0.0.2	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。
	(周知・公表の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→ <input checked="" type="radio"/> 周知・公表している <input type="radio"/> 周知・公表していない
	(説明) ホームページで理念、目的を学内外に公表するとともに、紀要、FD Newsletter、ICT Newsletterを発行し、活動内容の周知を行っている。
小項目0.0.3	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
	(検証の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→ <input type="radio"/> 検証している <input checked="" type="radio"/> 検証していない
	(説明) 2010年度に新設された組織であるため、理念・目的の適切性についての定期的な検証を実施するは、今後の課題である。

その他

《評価指標データ》

本学の育成した人材（卒業生）に対する社会（企業）の評価

卒業生がどの程度スクールモットー(マスタリー・フォア・サービス)をどの意識しているか【基本的な基礎データ】

卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人の比率【基本的な基礎データ】

卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人で、「スクールモットーに共感できる」ことをその理由とする人の比率

在学生のうち「この大学で人生の一時期を過ごすことが、将来にとって役立つと思う」人の比率

理念の周知について(1)－理念・教育目標を宣布する発行物・行事などの種類・数

理念の周知について(2)－総合コース「『関学』学」の履修者数

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目0.0.1

小項目0.0.2

2010年度には、新しく高等教育推進センター紀要『関西学院大学高等教育研究』と、FD Newsletter2回、ICT Newsletterを4回を発行し、センターの設置や活動内容について周知を行った。

小項目0.0.3

その他

《次年度に向けた方策(1)》伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目0.0.1

小項目0.0.2

紀要については創刊号は論考6件と講演記録であったが、今後は、論文件数を増加するほか、研究助成に伴う研究発表なども加え、幅広く教育力の強化、教育の質向上に関する場とする。

小項目0.0.3

その他

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目0.0.1

小項目0.0.2

小項目0.0.3

センターの理念・目的の適切性について検証を行う体制を整える。

その他

《次年度に向けた方策(2)》改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目0.0.1

小項目0.0.2

小項目0.0.3

教育推進連絡会議において、センターの理念・目的の適切性について検証を行う。

その他

◎自由記述

《点検・評価》&《次年度に向けた方策》

その他
(自由記述)

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

○2010年度に新設された組織であるため、設立に際してその理念や目的がしっかりと定められており、それらの公表も積極的に行われています。また、活動内容の発表も紀要や各種発行物により社会に公表されています。これらの点は大いに評価できます。LUNAの普及・定着のための具体的な方法や授業調査の状況などは、今後発表されるものと期待しています。

○目標は原則として小項目にそった形で設定されているはずですが、一部の目標に関して現状の説明がなされていません。小項目の現状の説明の中で目標の各項目について言及されることが望まれます。

○記述は簡潔で適切です。発行回数なども明示されています。また、検証の体制を整え検証することを改善事項に示したことも適切です。

○LUNAの利用率はいかがでしょうか。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目0.0.1

基盤評価：「学部、学科または課程ごとに、大学院は研究科または専攻ごとに、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を学則またはこれに準ずる規則等に定めていること」「高等教育機関として大学が追求すべき目的を踏まえて、当該大学、学部・研究科の理念・目的を設定していること」

達成度評価：「建学の精神、目指すべき方向性や達成すべき成果等を明らかにし、当該大学、学部・研究科の理念・目的として適切である」

○小項目0.0.2

基盤評価：「公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員・学生、受験生を含む社会一般に対して、当該大学・学部・研究科の理念・目的を周知・公表していること」

達成度評価：「理念・目的の周知・公表に関する各種方策（周知・公表の有効性や方法の適切性等の定期的な検証・改善など）をとり、当該大学に対する理解向上につながっている」

○小項目0.0.3

基盤評価：なし

達成度評価：「検証を実施する体制を整備し、責任を明確にするなどしたうえで、理念・目的の適切性について、恒常的かつ適切に検証を行っている」

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

・授業調査の実施について、2010年度は2008年に全数調査を実施し、その改善を行う中間年と位置づけている。2010年度は授業担当者が各自で授業調査を実施し、それぞれ担当科目に関してコメントを提出した。また別途高等教育推進センターが2010年春学期に任意の希望者100名（221科目）を対象に授業調査を実施した。2011年度は全数調査を実施する。

★ LUNA（LMS）の2010年秋学期の利用について、2010年10月～1月は、専任教員300名／600名（50%）、任期制教員・非常勤講師270名／約1,700名（約15%）の利用者があり、教員全体の利用状況としては、24%であった。また、2011年1月には学生13,070名／21,000名（約60%）のアクセスがあった。科目では、秋学期・通年開講の6,761科目の約18%にあたる1,200科目で利用された。